会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和2年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」  （２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果②教職員研修プログラムの構築 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第2回学習評価WG |
| 開催日時 | 令和2年9月16日（水）　15時30分～17時00分 |
| 場所 | オンライン会議 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾  委　　　員：植上　一希、岡村　慎一、近藤　賢宏、岩﨑　千鶴、  瀧本　知加、小田　茜、丹田　桂太、佐藤　昭宏  　　　　　　　　　　　　　　　 計 9名  オブザーバー：渡邉　晶帆、内川　穣太　　　　　　　　　　 計 2名  請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　 計 1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 合計12名 |
| 議題等 | 1. アクションリサーチのヒアリング項目、調査項目の検討（植上）   ・アクションリサーチ実施に関して説明（瀧本）  ・非認知能力に対する考え方・認識の差が大きいと思われるので、アン  ケート調査で定義を整理し、アクションリサーチに繋げていく。  ・カリキュラム全体と授業、行事等の区分けの整理が必要。  ・教育課程への反映と授業への反映について、教務担当から授業担当教員  への落とし込み方法が視える化されると良い。  ・（１）専門学校で育成しようとする「力（非認知的能力）」の明確化  （２）それらの「力」を学習評価に落とし込むための方法  以外に、非認知能力を認識するプロセスを明らかにすることも検討する。   1. アンケート項目の検討（佐藤）   (1)アンケート調査の位置づけ設計のポイント再確認  ・2020～22年度の課題設定、2020年度の方向性と着地点の説明  ・目的は大きく2つ。①アクションリサーチの前提条件を知る　②プログ  ラム開発に際する根拠の収集。その中で教育課程作成の実態、授業づく  り・学習評価に際しての意識について基礎的なデータをとる。他、非認  知能力や認知能力を入れこみながら実態を聞き出す、という狙いがある。  (2)アンケート項目（たたき台）検討  ・アンケート項目の説明  　大きく、①個人特性 ②学科内の取り組み ③授業担当者の取り組み の  　3項目。項目によって回答者を区分する予定。  　主導者、成果外活動での評価、理念・クレドへの共感等の質問も検討。  ・非認知能力の項目は出したほうが、学校・学科ごとの重要視されている  項目が得られるので、良いのではないか。  ・もっと研修プログラム開発に寄せるか。  ・個人特性の項目のNO.4（授業の受け持ち方）について、現状では答え方  が難しいので回答方法のサジェスチョンを検討。  ・研修のテーマは評価ではあるが、非認知能力を育成する学習方略があっ  ての評価なので、アンケートでは非認知能力に繋がる授業展開が確認  できると良い。  ・学校、学科、教員の経験値によって生じる教員間の教育観の違いを、こ  のアンケートで回答者自身が認識でき、調査結果からその実態を収集  できると良い。  ・今までの意見を考えると、誰に対してアンケートを取るのか、またアンケートの取り方（対象校）を検討する必要があるのでは。  3. スケジュール調整  ・第3回学習評価WG会議…10月7日（水）14時～16時  　福岡で対面開催。  6. 事務局から  ・移動の際はGoToキャンペーンの使用は禁止。 |
| 配布資料 | ・学習評価WGミーティング資料0916  ・アクションリサーチ（案）  ・学習評価研修アンケート項目vol.1(たたき台） |

以上